

ANNUAL REPORT



2025



すべての人の
「こども時代」をしあわせに



こどもの居場所いろり
特定非営利活動法人 mixjam



福岡県直轄で多様な人とインクルーシブな子ども環境を実現する事業
令和7年度 こどもの未来応援基金助成事業報告書

代表ごあいさつ

こどもたちが自分たち自身で しあわせな環境をデザインできる社会へ

私自身、病弱な子として過保護に育てられたこども時代が窮屈で退屈で心残りでした。
自分の気持ちや個性を大切にのびのびと育つことがなかなかできず、不自由だった。
そんな経験があるからこそ、
子どもたちが生まれた環境や個性や病気・障がいによって可能性を狭められることなく、
自分の心を大切に、好奇心や創造性をはたらかせて思いっきり自由に遊び、何度でもやってみて、
大切な人たちとのコミュニケーションや関係づくりも、お互いに満足するまでやりとりして、
体験のすべてを味わいつくし、幸せな環境を自分でデザインできるような環境づくりを
自分の一生の仕事にしたいと思いました。
"こどもの居場所いりり"は、子どもたちの想像や創造を大歓迎する場所です。
しあわせなこども時代を、すべての子どもたちが経験する環境を創りたいと願っています。

NPO法人mixjam 代表理事 辻千恵



- 大阪市出身
特定非営利活動法人mixjam代表理事/
(株) コドモノプロジェクト代表取締役
保育士・コーディネーター/19歳・17歳の息子の母
龍谷大学短期大学部社会福祉科卒業後、
保育士として知的障害・発達障害のある子どもたちの療育や生活支援に従事。
フリーランスの保育士を経て、地域での子育て支援活動や多世代交流の
場づくり・こどもの居場所づくりを企画・運営。
子どもたちの心と話すことやその子自身が自分を育む関わりを大切に考える。

目次

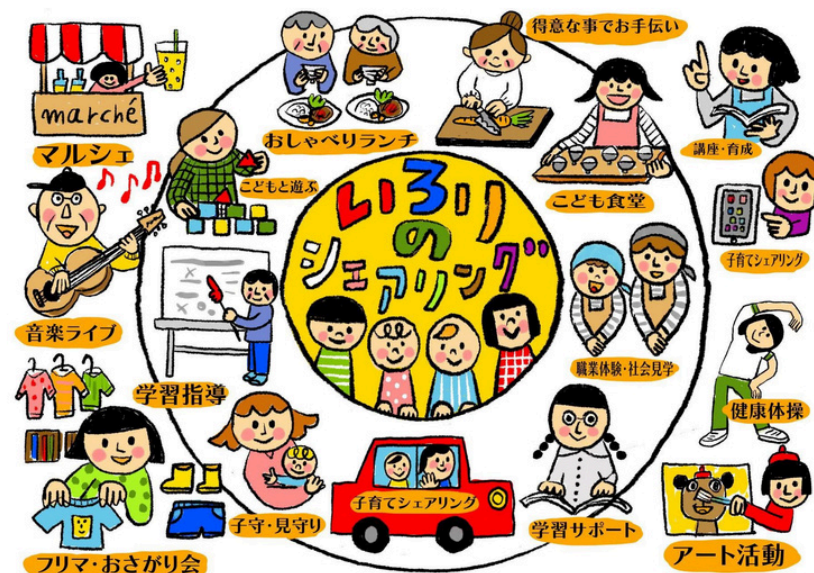
- 03 ビジョン・ミッション
- 04 こどもの居場所いりりとは
- 05 地域の背景と課題
- 06 令和7年度事業報告
- 12 利用者の声
- 14 収支報告/令和8年度の計画
- 15 終わりに/寄付サイトご案内



VISION & MISSION

すべての人の 「こども時代」を しあわせに

こども・子育てを
まんなかにした
相互扶助社会の創造と
醸成をめざしています



友達の友達は皆友達だ、地域に広げようシェアリングの輪っ!!

団体概要

団体名	特定非営利活動法人 mixjam
設立	2023年10月
代表者	辻 千恵
活動場所所在地	福岡県直方市古町6-8
電話番号	0949-36-4388
ウェブサイト	https://www.mixjam-inclusive.com/

主な活動

- ・体験型こども食堂の企画運営
- ・フリースクールの運営
- ・見守り訪問および宅食事業
- ・各種体験学習イベントの企画運営

こどもの居場所 いろいろ とは



「ここは、やってみる場所。」

正解はない、何度も失敗したらいい。

自分感じて、考えて、やってみて、また考える、そんな“練習と実験の場”

「できる人ができる時にできることを」

地域の大人みんなで子育てをシェアリングしよう！

福岡県直方市・ふるまち商店街の空き店舗を再生した居場所です。商店街のお店の人たちや地域の人たちに見守られながら、子どもたちがふらりと立ち寄れる場所として、2022年より活動を続けています。

特定の人だけがする・される関係ではなく、関係人口を増やし

「できる人ができる時にできることを」

持ち寄り、子育てをみんなでシェアリングする地域の文化をつくることを目指しています。



"WHAT IS IRORI — A SAFE HAVEN FOR CHILDREN?"

地域の背景と課題

直鞍地域における子育て支援・相互扶助事業の必要性



日本では子どもの約9人に1人が貧困状態にあり、ひとり親世帯に限るとその割合は44.5%に達します（厚生労働省 2022年）。また、養育費を受け取れていないひとり親世帯は56.9%と半数を超え、働いても生活が成り立たない「ワーキングプア」の問題が深刻です。

福岡県直鞍地域の中心である直方市は人口55,164人のうち高齢者が33.3%を占め（出典：総務省住民基本台帳 2024年）子育て世代の20-39歳の女性の割合が9.4%と、全国平均10.3%を下回る地域です。かつての炭鉱産業の衰退以降、地域の経済的基盤はよわく、サポートを必要とする子育て家庭が孤立しやすい環境であるといえます。

こうした状況の中で、行政の支援が届きにくい家庭や制度の狭間にいる親子を地域でつなぎ、日常的に寄り添う居場所の役割が必要不可欠です。

【全国データ】（出典：厚生労働省 2022年国民生活基礎調査）

指標	数値
子どもの貧困率	11.5%（子どもの約9人に1人） <small>Ministry of Health, Labour...</small>
ひとり親世帯の貧困率	44.5% <small>CFA Japan</small>
ひとり親世帯で食料が買えなかった経験	21.1% <small>CFA Japan</small>
養育費を受け取っていないひとり親世帯	56.9% <small>Nippon Foundation</small>
日本のひとり親貧困率の国際順位	OECD加盟国中ワースト1位 <small>Kifunavi</small>

【直方市のデータ】（出典：総務省住民基本台帳 2024年）

指標	数値
総人口	55,164人 <small>GD Freak!</small>
高齢化率	33.3%（3人に1人が65歳以上） <small>GD Freak!</small>
20～39歳女性の割合	9.4%（全国平均10.3%を下回る） <small>GD Freak!</small>

令和7年度 実施事業

以上の課題背景に基づき、
4つの事業をおこなうことで
地域のセーフティネット形成を
目指しました。





「いろいろこども食堂」の運営

この事業内の開催回数	市補助金での開催回数	2025年度総開催数	18歳以下参加者数	おとな参加者数	全参加者数
108回	24回	132回	1381名	635名	2016名



いろいろのこども食堂は、毎週(月)(木) (日中) 金曜日 (夜) に年間108回開催しました。延べ2016名が利用し、地域の親子にとってなくてはならない居場所として育ってきました。
食事の提供にとどまらず、季節の行事や企業・地域との連携によるイベントを通じて、子どもたちにさまざまな体験の機会を届けました。

学生ボランティア参加校・大学

直方高校 / 大青蘭高校 / 九州産業大学

4月20日 | 多世代交流スペースでのお弁当配布

5月2日 | こどもの日メニュー+新聞紙かぶとをつくろう

5月18日 | 学校のことをみんなで話そう会

6月14日 | 自然教室+こども食堂

6月27日 | 引っ越し前ラスト! おわかれ縁日パーティー

8月1日 | 企業コラボ (株) フタバ九州 | 工場見学xこども食堂

9月13日 | 商店街コラボ«わたしの秘密基地イベント»

ゆめいるクリームソーダ屋さんごっこ

9月20日 | 自然教室xこども食堂

10月17日 | 企業コラボ ライオンおくちからだプロジェクト

10月19日 | 商店街イベントコラボ 6メートルの巻き寿司をつくろう

10月26日 | ふるまち商店街にてハロウィントリックオアトリート

ハロウィンカレー

12月6日 | 企業コラボ 一風堂ラーメントラックプロジェクト

12月19日 | クリスマス会 | サンタさんピザづくり&コンサート

12月28日 | お餅つき&大掃除・お正月の準備

1月12日 | 多世代交流スペースで交流ポップコーン

1月30日 | 食育ヒーローと節分を学んで恵方巻をつくろう

2月8日 | 防災教室にて避難所体験・防災食体験

2月20日 | 地域団体コラボ 直方歴史カルタと名物焼きスパを楽しもう!

2月27日 | ちょっと早いおひなさまちらし寿司

3月6日 | 地域有志コラボ 画廊カンヴァスxめし屋池田さん 里いもコロッケの会

3月16日 | 大和青藍高校1年生 こども食堂を運営しようコラボ授業

3月20日 | 地域ネットワークコラボ 直方市ネットワークでこども食堂

3月23日 | お花見こども食堂@直方中央公園

3月24日 | 企業コラボ 日本トーター (株) 飯塚オートレース場ファン感謝祭にてこども食堂



令和7年度 こども食堂 季節イベント および コラボイベント



直鞍子ども食堂ネットワークの構築

項目	実績
直方市内子ども食堂団体数	9団体
直方市定例ミーティング開催回数	年6回（社会福祉協議会主導）
直鞍地区交流（県ネットワーク地区研修）	1回（11月26日）
直鞍地区参加団体	宮若市1・鞍手町2・小竹町1

活動のようす

直方市内のネットワーク

直方市内では、社会福祉協議会が主導する定例ミーティングを年6回開催。現在9団体が参加し、それぞれの活動状況や課題の情報共有がスムーズに行えるようになってきました。地元企業や有志の方から寄せられるご寄付を社協がいったん受け入れくださって各団体へ配布する仕組みも定着し、連携の土台が少しずつ整ってきています。

直鞍地区全体のネットワーク

直鞍地区全体（宮若市・鞍手町・小竹町・直方市）については、11月26日に福岡県子ども食堂ネットワーク主催の地区研修の機会を活用し、各団体との交流を行いました。また、直鞍地区の子ども食堂運営者によるLINEグループを立ち上げ、地区全体でのネットワーク化へのニーズを探りながら、次のステップに向けた基盤づくりを進めています。

また、福岡県子ども食堂ネットワークの一員として、2月28日には認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえが主催する全国交流会へも参加させていただき、地域ネットワーク運営の学びを深めました。

現状と今後の課題

直鞍地区全体としての組織的なネットワーク機能はまだ発展途上です。引き続き各団体との関係を丁寧育てながら、地域全体で子どもたちを支える仕組みづくりを目指していきます。



子どもと関わる人材の育成

令和7年度 研修一覧

日付	テーマ	講師
8月7日	SDGsカードゲーム	藤田敏雄氏 (SDGsゲームファシリテーター・行政書士)
10月6日	子どもと関わる時に大切にしたいこと	山下智也准教授 (北九州市立大学)
10月6日	子どもと関わる心理学	山下智也准教授 (北九州市立大学)
12月15日	支援の実際について	山下智也准教授 (北九州市立大学)
12月15日	ケーススタディ①	山下智也准教授 (北九州市立大学)
1月19日	関わりの認知について	山下智也准教授 (北九州市立大学)
1月19日	ケーススタディ②	山下智也准教授 (北九州市立大学)
1月30日	食育ヒーローと学ぶ節分の文化と恵方巻	野中崇史氏 (食神坊風土)
2月5日	子どもたちと遊びについて	青柳幸枝氏 (Treebranch代表)
3月6日	子どもたちと心を育むアナログゲーム	青柳幸枝氏 (Treebranch代表)
3月12日	自分をメタ認知しチームで関わるということ	山下智也准教授 (北九州市立大学)
3月12日	ケーススタディ③	山下智也准教授 (北九州市立大学)

子どもたちに関わるスタッフ・ボランティアの資質向上を目的に、令和7年度は年間11回・延べ12講座の研修を実施しました。

北九州市立大学の山下智也准教授を中心講師に迎え、心理学の理論から実際のケーススタディまでを体系的に学ぶシリーズを組みました。

また、SDGs・食育・遊びなど多彩なテーマの専門家をお招きし、現場で子どもたちと関わる人たちの視野と実践力を広げる機会をつくりました。



訪問支援とアウトリーチ

支援世帯数	8世帯
訪問支援時間	年間100時間
支援内容	見守り訪問・宅食支援・家庭環境の整備サポート

活動のようす

訪問事業を開始して2年目となる2025年度は、直方市の児童家庭係やスクールソーシャルワーカー（SSW）との連携がさらに深まり、

要保護児童対策地域協議会（要対協）にかかる家庭へのケアに体系的に携わることができるようになっています。この事業で助成いただきました事業費では、行政サービスの狭間にあるご家庭への見守り訪問・宅食支援を8世帯・年間100時間実施し、これまでなかなかつなげなかった家庭との関係構築を進めてきました。

また、同地域の他の民間団体と連携して支援を始めた家庭が、その後、市・学校とも繋がり要対協のケースとして位置づけられた事例も生まれました。民間の柔軟なアウトリーチが

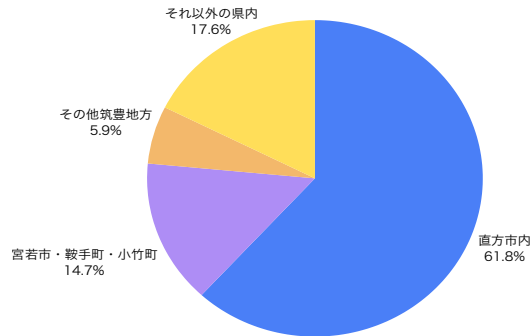
制度による継続支援への橋渡しとして機能できたことは、私たち自身にとっても救いとなりました。

今後に向けて

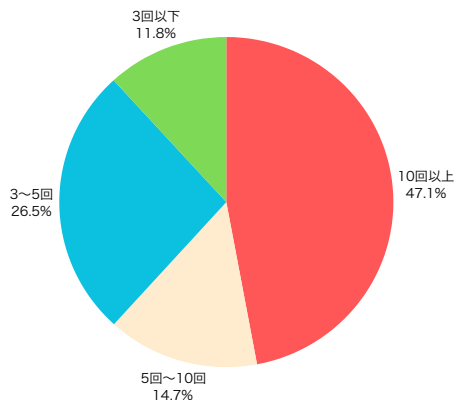
来年度はさらに、支援の狭間にいる子どもたち・家庭へのアウトリーチを強化します。民間・行政・学校が連携しながら継続支援へ繋げられるケースを増やし、どの子どもも取りこぼさない地域の仕組みづくりを目指していきます。

利用者の声

利用者の居住地域



利用者の約6割が直方市内在住であり、地域に根ざした居場所として着実に定着しつつあることが確認できました。

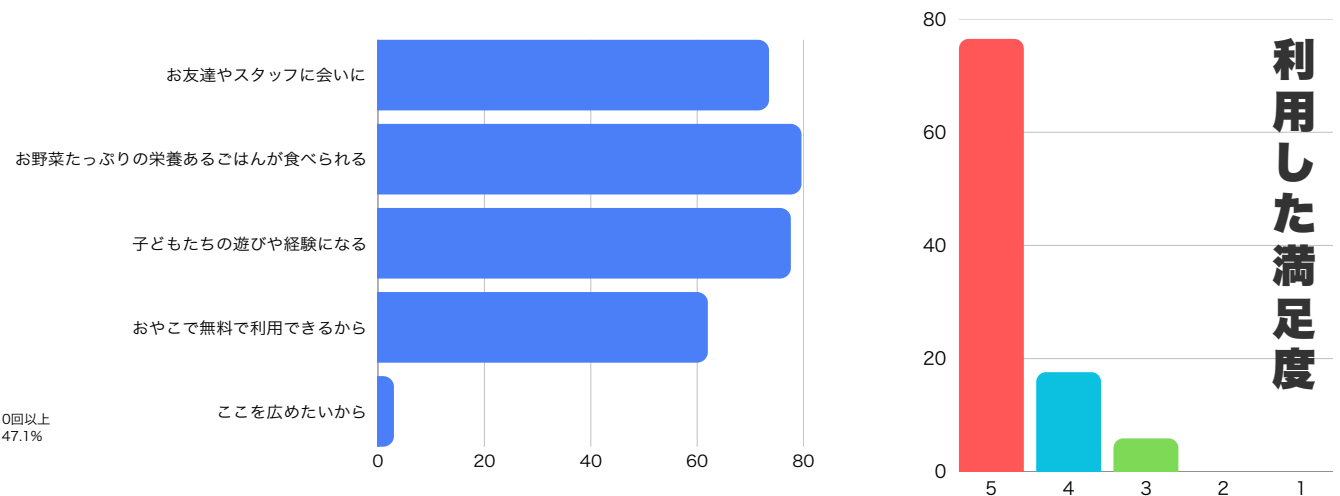


利用回数

利用者の約9割が3回以上の継続利用者であり、なかでも10回以上のリピーターが約半数を占めており、日常的に通い続けられる居場所として機能しています。

利用理由の上位は『栄養あるごはん』『子どもの遊びや経験』『人との出会い』であり、食・体験・つながりの三つの価値がいろいろへの来訪動機となっていることがわかりました。『無料だから』を上回る理由が複数あることは、経済的支援を超えた居場所としての価値を示しています。

子ども食堂に行く理由



利用満足度では約95%が『満足』以上と回答し、不満の声はゼロでした。地域に根ざした継続利用者が多いという結果と合わせると、いろいろが安心して通い続けられる場所として評価されていることがわかります。「普通」とこたえた人たちのニーズを今後見極めていきます。

利用者の声とそれを受けての改善点

スタッフさんが常に忙しそうで、育児の悩みなどプロに聞いてほしい時に、なかなかゆっくりお話できないのが少し残念です。スタッフ皆さんが心から楽しそうに仕事してる姿はカッコいいと思います。

相談時間の確保

人見知りの私には他のママさんの輪に入りづらいなと感じています。

参加のしやすさ

こども食堂のご飯がすぐなくなるので、できればもう少し増やしてくれと助かります。食事量の確保

人が作った温かいご飯が食べれることが癒しです。家では作らないメニューを食べれたり、やっぱり人が作ったご飯はおいしいなと思います。

食の癒し

お弁当届けてくれてありがとうございます！入ってる食材を見ると凝って作ってくれているのが感じられて、愛を感じています。

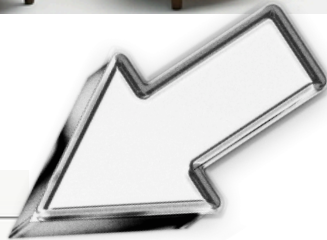
愛情・丁寧さへの感謝

いろんなことに次から次にチャレンジされていて、いろんな方の背中を押したり、支えが必要な方には手を差し伸べてくださったり。やりたい！を実行していく原動力がすごすぎます。もっと早くからいりりの存在を知ることができていたらと思います。

活動への共感・応援

いつも活動のインスタを見て感動します。子ども達への関わり方や喜ばせ方がとても尊敬します。言葉にするのは難しいけどとにかく好きって事です。

SNS・発信への共感



利用者の声	翌年度の方針
スタッフが忙しそうで、育児の悩みをゆっくり相談できない	→ 調理・掃除の協力者を増やし、保育士が相談にのれる時間を確保する
人見知りなので他のママさんの輪に入りづらい	→ 人材育成・ネットワーク構築を継続し、現場で相談援助できるスタッフを増やす
ご飯がすぐなくなる。もう少し増やしてほしい	→ 食材費および調理ボランティアを増やし、提供できる食数の拡大を目指す
障がい児デーみたいな日があると外食困難な家庭も来やすくなる	→ 家庭の状況にかかわらず参加できる多様な開催形式を検討する
フリースクールが必要になった時に慣れた場所があると心強い	→ フリースクール事業の体制を整え、生徒数を増やす

「今日はだれのごはん？」「おいしいごはん作ってくれてありがとうだね」と話しながらごはんを食べています。
食事への感謝・喜び

アレルギー対応していただけることが本当にありがたいです。子どももまた行くことを楽しみにしているようです。
安心して食べられる環境

「もっと子どもたちが小さい時にあったらよかったのにな」と思います。いりりに行くと、小さい子を抱えてワンオペ頑張ってた頃の自分のつらさが浄化されるような気持ちになります。
過去の孤独な子育ての癒し

いろいろのおかげで、私もこども達も心の余裕ができて、メリハリのある毎日過ごすことができます。
心の余裕・生活の変化

気持ちの浮き沈みがある中で、本当に寄り添ってくれる場であると感じて感謝でしかありません。直方にはたくさんの子どもの食堂があり、そのなかでも本当に落ち着く場所だと実感しています。
精神的な支え・地域での存在感

いりりに行くときスタッフの皆様が「おかえりー！」と明るく迎えてくださり、毎回行くのがとても楽しみです。
温かい迎え入れ

心が安心できるみんなの場所を作ってくださいありがとうございます。笑顔で迎えてくれる、暖かい場所。
安心・温かさ

いつかフリースクールが必要になるかもしれないという考えもあり、慣れた場所に通う選択があるのが心強いです。
将来の安心・セーフティネット

障がい児デーみたいな日があると、多動や奇声などで外食が困難なご家庭も少しは楽に、きょうだい児も嬉しい日になるのではないかと思います。そこから徐々にいつものいりりに来ることができたら、夢のようです。
多様なニーズへの要望

収支報告

福岡県直轄で多様な人とインクルーシブな子ども環境を実現する事業

こどもの未来応援基金（未来応援ネットワーク事業）助成事業

NPO法人 mixjam / 対象期間：令和7年4月1日～令和8年3月31日

【収入の部】				
	科目	予算額 (円)	決算額 (円)	備考
1	助成金収入（こどもの未来応援基金）	2,987,000	2,987,000	助成決定額
2	寄附金収入（支援事業にかかる収入）	100,000	100,000	企業協賛
	収入合計	3,087,000	3,087,000	

【支出の部】				
	科目	予算額 (円)	決算額 (円)	備考
1	謝金	616,500	661,500	調理ボランティア・研修講師・訪問支援員
2	旅費交通費	20,000	20,000	訪問支援旅費
3	賃金	488,400	488,400	居場所スタッフ賃金
4	消耗品費	240,000	244,862	運営消耗品等
5	食材費	888,000	888,133	こども食堂食材費
6	印刷製本費	40,000	40,772	報告書・チラシ印刷
7	地代家賃	684,000	684,000	居場所家賃（月57,000円×12ヶ月）
8	保険料	111,000	17,480	居場所保険料
	支出合計	3,087,900	3,045,147	



令和8年度 福岡県直轄地域で
みんなで育む地域協働型
こども支援モデル創出事業ビジョン

終わりに

人生は山あり谷あり。大変な時がいつ訪れるかは、誰にもわかりません。
だからこそ、しんどい時こそ頼れる場でありたいと、ずっと思ってきました。

この2025年度、いろりに集う人たちの中にもさまざまな困難を抱える場面がありました。
ひとり親になり生活が苦しくなったり、離婚したあと養育費が入らず調停に悩まされたり、
子どもの重複するアレルギーに一生懸命対応しながらも疲れる日があったり、
発達特性のある子どもとの関わりやきょうだい・世間との狭間に途方に暮れたり、
学校に行かなくなったわが子の気持ちがわからず悩んだり・・・
そういったことは決して他人事ではなくて、誰の身にも起こり得ることで。
ふと孤独に陥りそうになるママたちの小さな支えになれる場所に、
いろりが少しずつ育ってきたかもしれないと感じる日が
少しずつ増えてきました。それが、この1年で一番心に残ったことです。

子育てをシェアリングするということは、
「誰かのことを、自分の心や境界線を大切にしながらも自分ごととして考えて動ける」
関係性をいかに育んでいけるか、
だと思っています。

今年度も、この事業を共に楽しみながら支えてくださったボランティアのみなさま、
連携・協力くださった行政の方々や企業のみなさま、各ネットワークのみなさま。そして、
いつもいろりのことを思い出して子どもたちに声をかけてくださったり、
「これ使える？」と食材などを寄付して下さる地域のみなさま。
本当にたくさんの方々から心を寄せていただいたこと、心から感謝しております。

2025年度も、本当にありがとうございました。

皆様の心の中の“こども時代”もまた、子どもたちに関わることで癒され育まれると嬉しいです。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。



NPO法人 mixjam
こどもの居場所いろりスタッフ一同

寄付サイトのご案内

いろりを、一緒に支えてください。
「いつでもおいで」と言える場所を
ずっと続けていくために、
皆様のご支援が必要です。
こども食堂の食材費・スタッフの
人件費・訪問支援の活動費など、
いろりの日常はたくさんの方が心を
寄せてくださっていることで成り立
っています。3,000円からのご寄附
で、地域の子どもたちの環境を共に
創る仲間になっていただけると
嬉しいです。



▼ ご寄附はこちらから

<https://syncable.biz/associate/mixjamirori>

NPO法人 mixjam (Syncable)



ありがとうございました！

公式HP



こどもの未来応援国民運動

特定非営利活動法人mixjam

822-0027

福岡県直方市古町6-8

0949-36-4388

